

10月会山行

大千軒岳 (1072m)

日程：平成26年10月12日(日)
 参加者：c L;西田(芳)、L;藤木(晴)・山岸、渡辺
 藤木(た)、水江、酒井、及川、西田(昌)、
 近藤・・・10名
 行程：奥二股登山口；6時05分、広い河原；7時
 07分、金山番所；8時16分、ガンバリ岩；
 9時53分、千軒平；10時16分、
 大千軒岳(1072m)10時55分
 昼食；11時0分～11時30分、千軒平；11
 時55分、休み台；12時35分、金山番所；
 13時16分、広い河原；14時08分、登山口；
 15時15分、
 登り；4時間50分、下り；3時間45分

11日当別丸山に登山後、福島町の大千軒岳登山者休憩所に全員宿泊、西田、酒井、渡辺、水江4氏の男料理で楽しい天気祭り、準備の間、女性人と男性3名は栗拾いと、小粒のじゃがいも拾いでお土産をゲット。美味しい料理と語らいで20時30分にお開き、10名が寝袋に入り、ごろ寝。



12日(日)3時40分起床、餅入りうどん朝食を終え、小屋内の片づけ、清掃で奥二股登山口に3台の車を駆ける。登山準備を整え、準備体操後、A班を先頭に6時05分登山口を出発する。



立派なつり橋、 沢くるみ 沢沿いの登山道



シダが繁茂した登山道、もう広い河原も近いぞ。



7時7分に広い河原に到着、ここは砂金の採取場所か、強者共が夢を託して、競い合った場所か、



河原に下りるところが結構険しい。増水時注意。

8時16分金山番所に到着、立派な十字マークの慰霊碑が建って居た。ここで幾多のキリシタン信徒が殉教された痛ましい場所だ、深く頭をたれる。毎年ここでミサが行われる相だ。レリーフはぼけて読み取れない。



尾根に取り付く、急登が始まる。休み台で一服、前千軒の雄姿が望める。



標高が600m上は紅葉が盛りで、黄・赤・橙色と見事に山裾を染め上げていた。大千軒には今回で三度目の登山の筈が、十字架以外全く記憶に無い、物忘れの現況に愕然とする。

千軒銀座の名称箇所を通過、名前の由来は？

稜線の紅葉

もう一頑張りだ



一汗を掻き、見晴の良い草原台地に上がって来た、北方に目指す大千軒岳の雄姿が飛び込んで来た。ああ”なんと堂々とした山だ。感激する。



千軒平で一服、

十字架を背に写真をパチリ。



夏は見事な両側のお花畑（草紅葉）の登山道を足取りも軽やかに頂上を目指し又、一汗かく。

頂上直下は笹漕ぎ、足元は滑り易い、ヨイショと。

10時55分大千軒岳（1072m）の頂上に立つ。



会山行の為、会旗を入れてハイ、パチリ

頂上からの眺望は素晴らしく、西側遥かに雲の上に岩木山の雄姿が浮かぶ、その左に津軽半島と八甲田山が、日本海側に渡島大島が見えた。残念ながら羊蹄山は見えず。北側には灯明岳、姿の良い七つ岳が見えた。少し下がった箇所では前千軒、日本海、津軽海峡を眺めながら、昼食をとる。（11時から11時30分）笹道は湿気で足元が滑る、笹を掴みながら慎重に下る。千軒平11時55分、振り返り大千軒岳に別れを惜しむ。もう来れないだろう“有難う”。下る途中の前千軒岳の東斜面の紅葉が見事だ。



ザレ場を慎重に下り、休み台に12時35分到着、13時16分金山番所に別れを告げ、渡渉点の石をポンポンと渡り、広い河原に14時08分に帰着。途中、元気者の酒井さんキノコ採りに馳せる。登り返しはキツイ、15時15分登山口に無事帰着。皆さんご苦労さん、登り応えのある良いやまでした。

リーダー、サブリーダー、料理人・会計さんに感謝。途中入浴、21時40分に帰宅、長時間の運転有難う。